

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和6年11月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2～3）

山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口及び明治火口でごく弱い噴気を観測しました。昭和4年火口でごく弱い噴気を観測した日数は、2021年頃と比べて明瞭に増加していますが、山麓に設置した監視カメラによる観測では、噴気活動に明瞭な活発化は見られていません。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図4）

今期間、北海道駒ヶ岳付近の地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図5）

GNSS連続観測では、2024年1月以降、特段の変化は認められていません。長期的には、山頂火口原付近を挟む基線で断続的に伸長傾向が続いています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和6年12月分）は令和7年1月14日に発表する予定です。

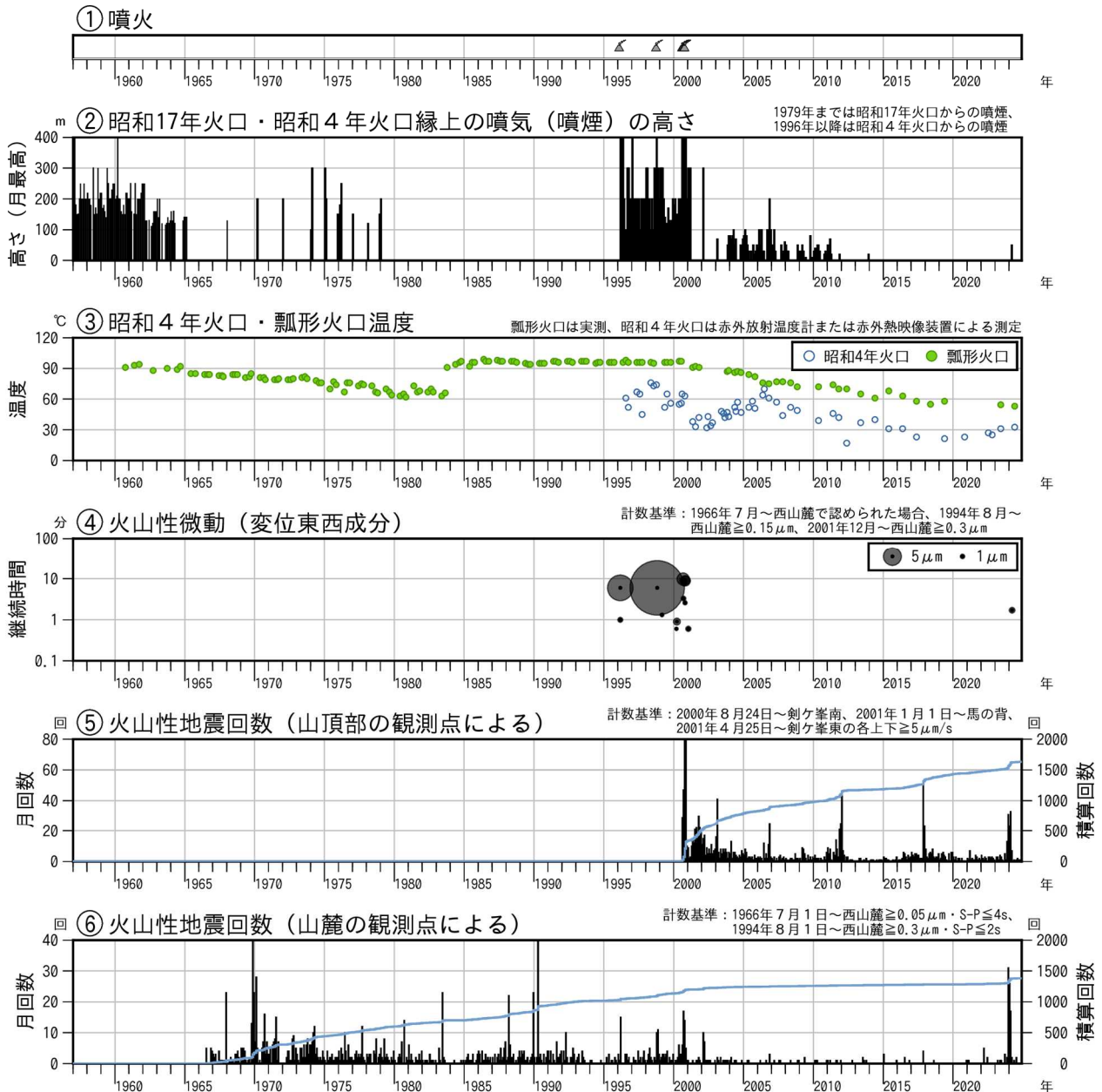


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2024年11月）
各火口の位置は図6、図7を参照してください。

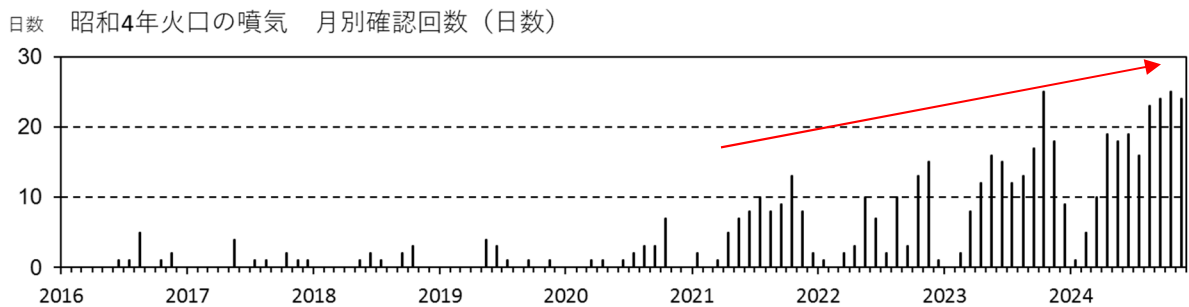


図2 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口のごく弱い噴気を観測した日数（2016年1月～2024年11月）
山頂部に設置した剣ヶ峰監視カメラ及び駒ヶ岳山頂（道）監視カメラ（位置は図6、図7参照）による観測結果です。
冬季は雪氷付着のため欠測日が多くなる傾向があります。



図3 北海道駒ヶ岳 南西側から見た昭和4年火口付近の状況（剣ヶ峰監視カメラによる）

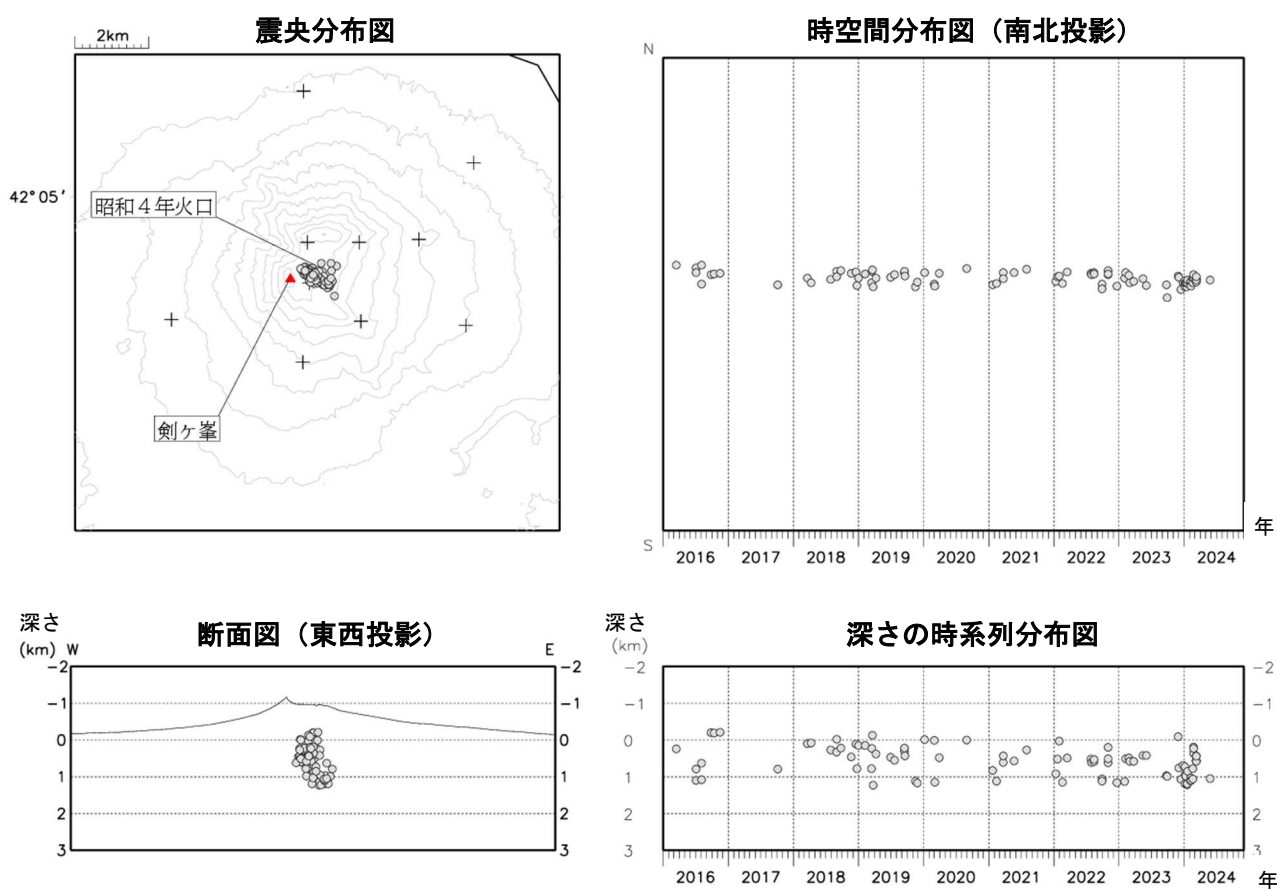


図4 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2016年1月～2024年11月）

●：2016年1月～2024年10月の震源 +：地震観測点

本資料には再計算した震源を用いていますが、前月までの資料と比べて震源分布に特段の変化は認められません。

・今期間は震源が求まった地震はありませんでした。

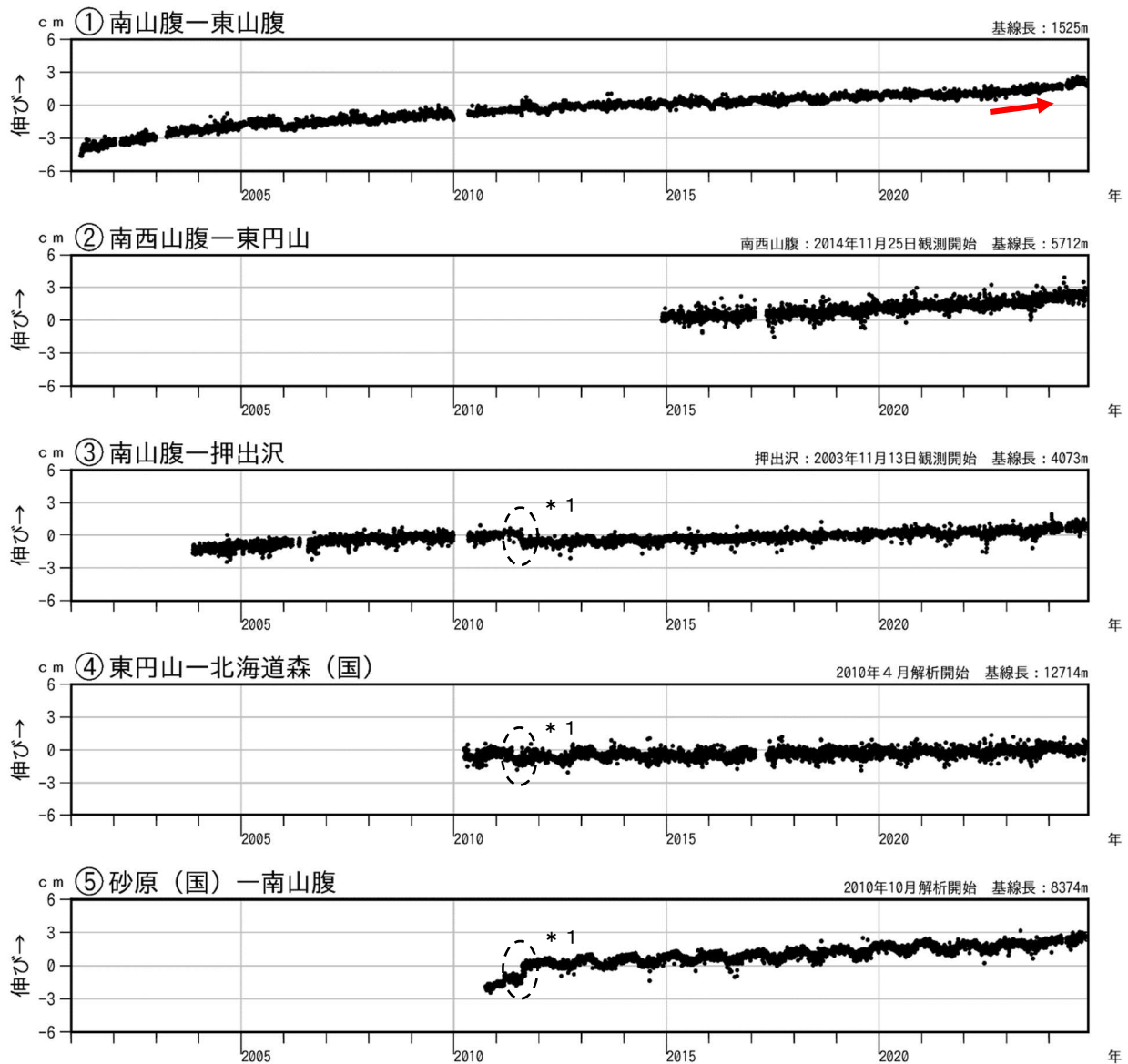


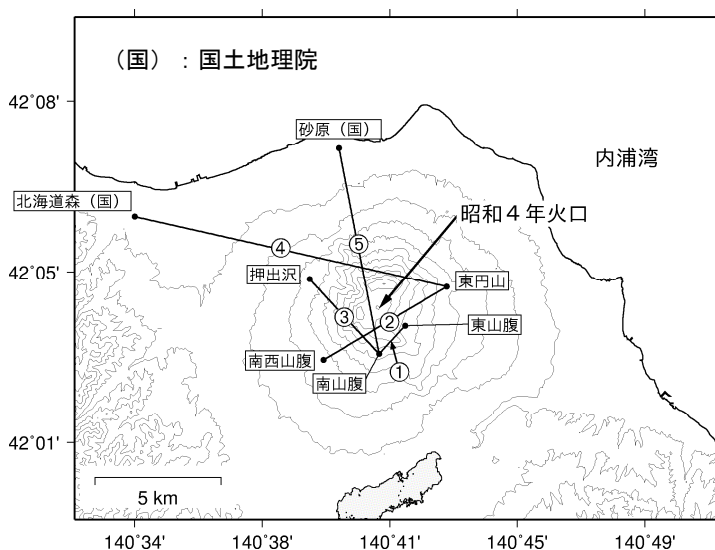
図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による
基線長変化（2001年4月～2024年11月）及び観測点配置図

グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

* 1：システム更新に伴う調整中のため、一部の過去データにステップ状の変化（黒破線内）がみられています。これにより前月までの資料と比べて見かけが異なりますが、火山活動による地殻変動の状況や解釈がこれまでと変わるものではありません。

- ・ 2022年頃から山頂部の一部基線でわずかな伸長（赤矢印）が見られていましたが、2024年1月頃からは概ね停滞しています。



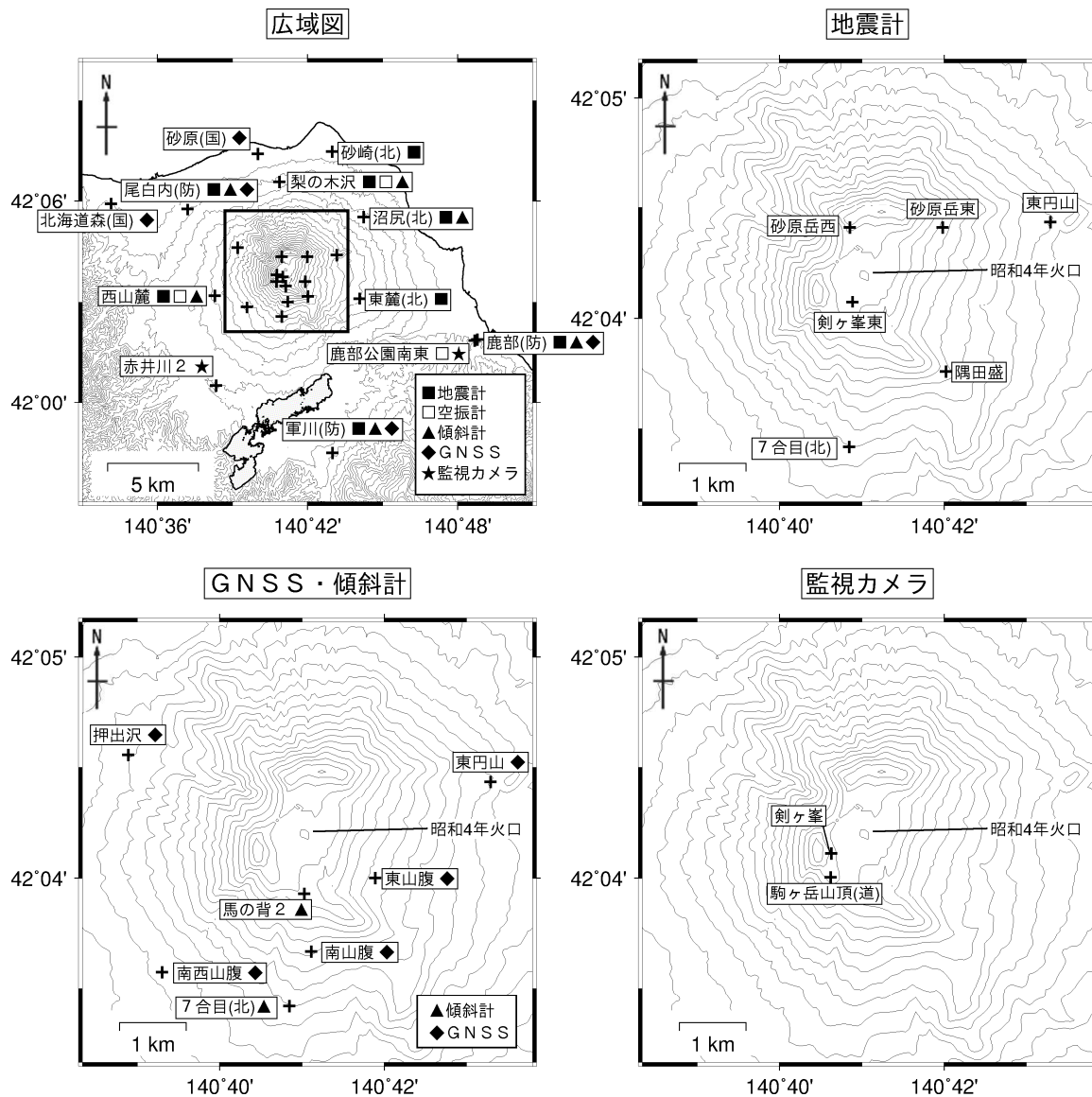


図6 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

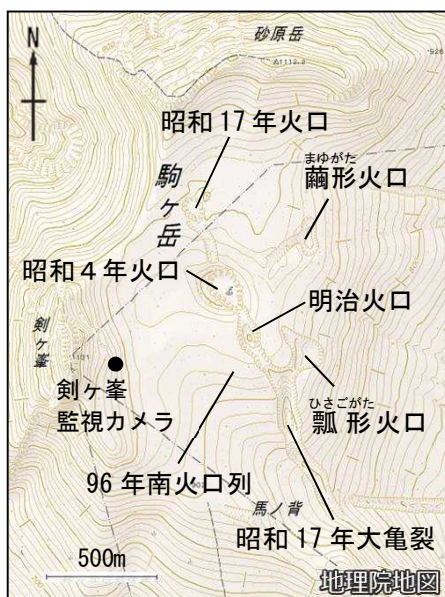


図7 北海道駒ヶ岳 山頂火口原周辺図